

2021年6月1日

和歌山県知事
仁坂 吉伸 様

IRカジノ誘致の断念を求める申し入れ

日本共産党和歌山県議団
団 長 奥村 規子
幹事長 高田 由一
楠本 文郎
杉山 俊雄



新型コロナウイルスの感染拡大により世界中のカジノは大赤字となり、横浜市におけるラスベガス・サンズなど、大手カジノ事業者が相次いで日本から撤退しています。和歌山県でもサンシティ・グループが5月12日、撤退を決めました。

サンシティは、新型コロナウイルス感染拡大による業界への甚大な影響と、日本の区域認定までに長期間を要することなどを理由にしています。しかし、オーストラリアのカジノ管理機関の報告書で資金洗浄への関与が指摘されたほか、反社会的勢力との関連などが報じられ、これらの疑惑が撤退の中心問題とみられています。

サンシティは事業者としての資格審査を通過しています。この点も含め、県が海外事業者の資金洗浄や反社会的勢力との繋がり等を調査することには限界があります。残る1社のクリアベストグループに対しても、十分な調査ができるとは限りません。

IRカジノは人の不幸の上に成り立つ事業です。同時に、一度できてしまえばそれが40年間続けられることとなります。こんな先の暗い“投資”に、和歌山県の未来を託すことはできないと私たちは考えます。まして、住民の福祉増進を目的とする地方自治体が誘致するべきものではありません。

この機会を捉え、和歌山県行政としてIRカジノ誘致をきっぱりと断念することを求めます。

以上